

サヤインゲンの促成栽培に適応した天敵利用体系

サヤインゲンの促成加温栽培の難防除害虫に対する天敵利用体系を確立

背景・目的

- ・施設栽培の加温型サヤインゲンではタバココナジラミ、ミナミキイロアザミウマ、チャノホコリダニ等は難防除害虫
- ・これらの難防除害虫に対し、有効な殺虫剤は少なく、持続的で安定的な防除技術として天敵利用技術の確立が必要
- ・有効な天敵種および利用条件を防除効果および導入コストの観点から比較

成果の内容

【サヤインゲンでの天敵利用体系】

スワルスキーカブリダニに天敵温存植物(スイートアリッサム)を組み合わせ、ジベレリン処理開始時期を目安に10a当たり50,000頭を放飼する。



時期	天敵利用		対象害虫			
	栽培管理作業	天敵利用作業	タバココナジラミ	ミナミキイロアザミウマ	チャノホコリダニ	
10月	上					
	中	サヤインゲン播種時 サヤインゲン発芽時	スイートアリッサム定植 選択性薬剤による防除	○	○	○
	下	ジベレリン処理期 (伸長促進期間)	スワルスキーカブリダニ放飼 (50,000頭/10a)			
11月	上					
	中					

インゲンの株間にスイートアリッサムを定植
(天敵の温存場所)



期待される成果

- ・有効な殺虫剤が少ないサヤインゲンでの持続的・安定的害虫防除
- ・殺虫剤散布回数は慣行よりも約半減
- ・これまで天敵利用が難しかったサヤインゲンでの普及を促進

○普及対象・範囲

県内サヤインゲン(施設加温型促成栽培)生産者

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部病理昆虫研究室
(消費・安全対策交付金)